

2025年 第29週 7月14日～7月20日

西多摩保健所感染症週報

東京都西多摩保健所
Tel 0428-22-6141



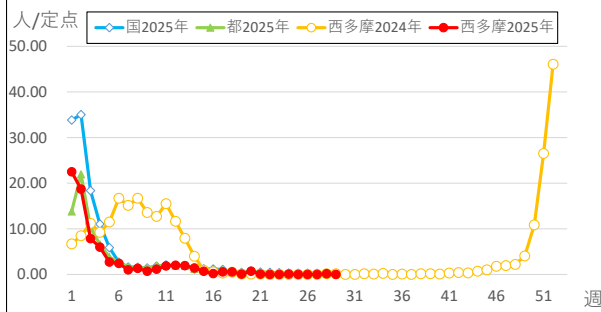
管内の発生動向及び定点把握対象疾患 ()は内訳又は前週値

- 全数届出の疾患は、腸管出血性大腸菌感染症3件（70代2件、80代1件）、百日咳12件（5～9歳3件、10代7件、30代1件、40代1件）の発生がありました。
- 定点報告は、新型コロナウイルス感染症は1.86（1.07）、感染性胃腸炎は3.00（1.88）で増加傾向です。水痘は多い状況が続いていましたが、28週から0件となっています。

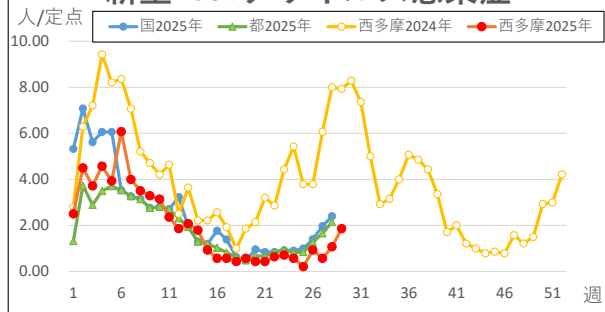
管内の感染症集団発生状況 ()は内訳

- 新型コロナウイルス感染症2件（高齢者入所施設）、伝染性紅斑1件（保育所）、疥癬1件（障害者入所施設）の報告がありました。

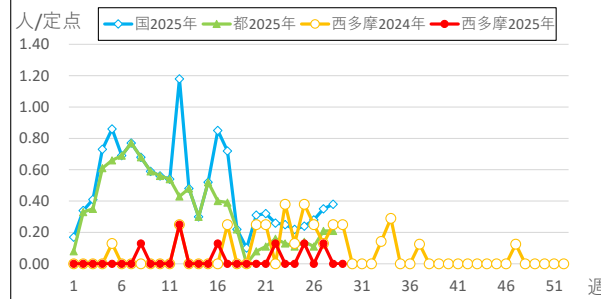
インフルエンザ



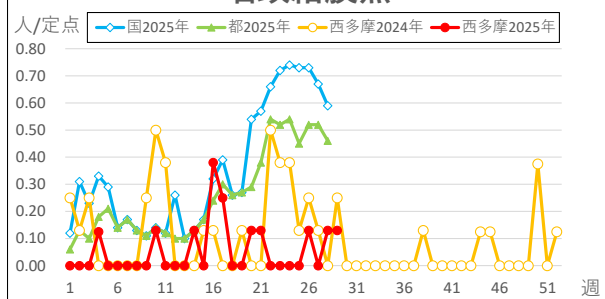
新型コロナウイルス感染症



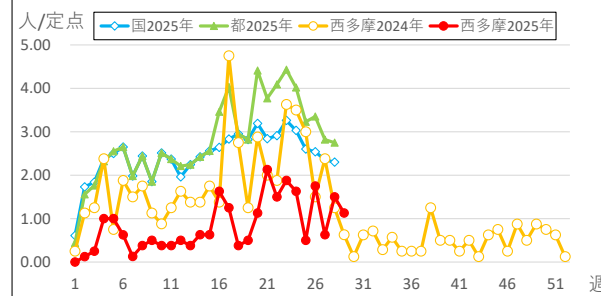
RSウイルス感染症



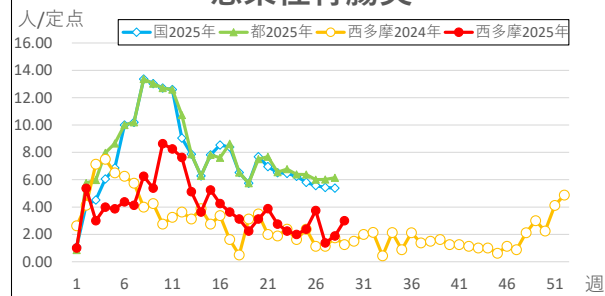
咽頭結膜熱



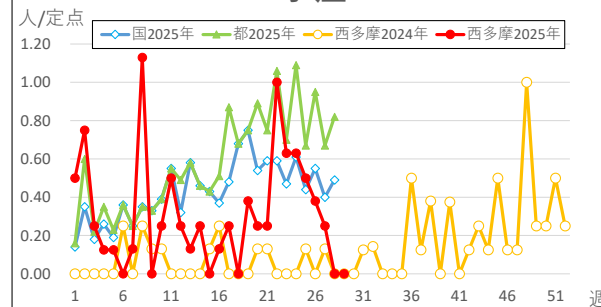
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



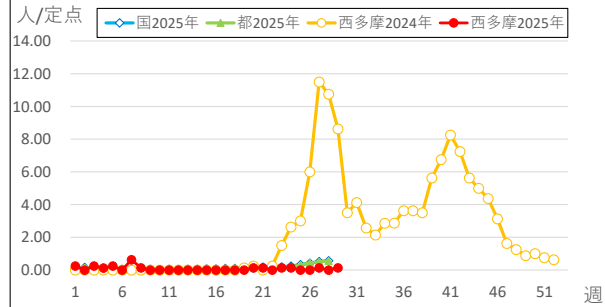
感染性胃腸炎



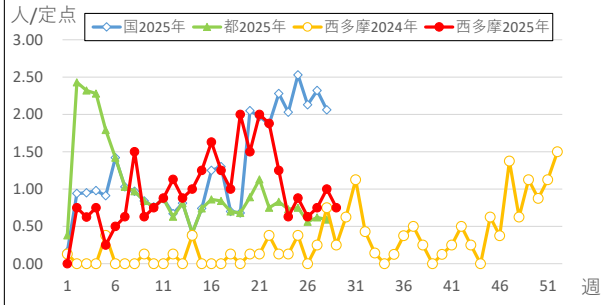
水痘



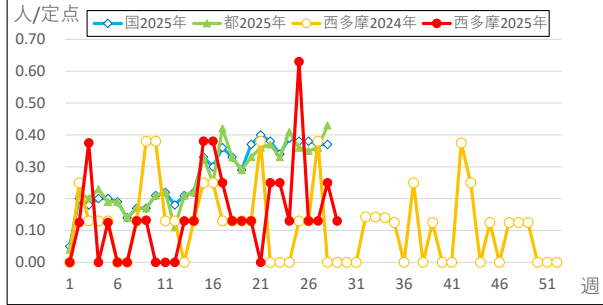
手足口病



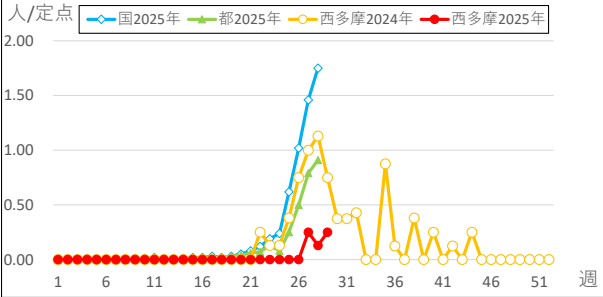
伝染性紅斑



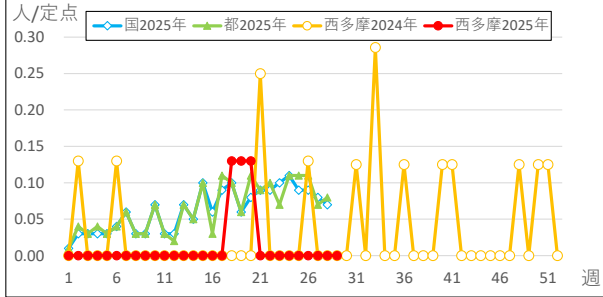
突発性発しん



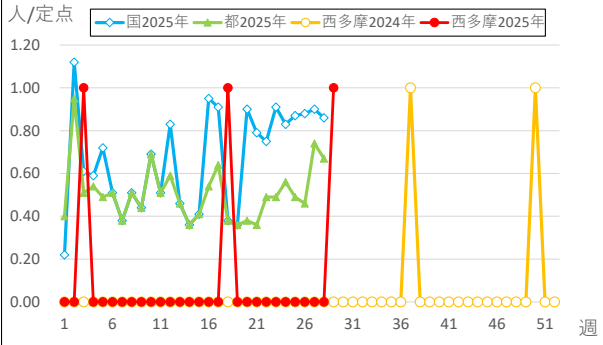
ヘルパンギーナ



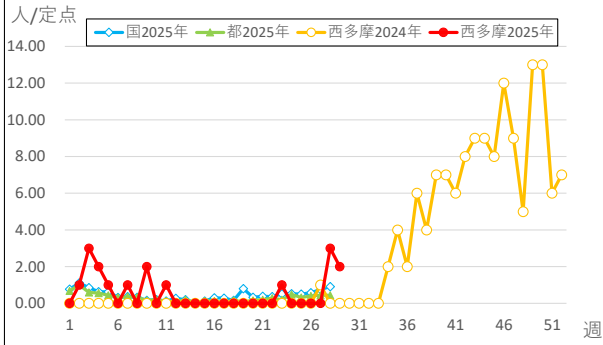
流行性耳下腺炎



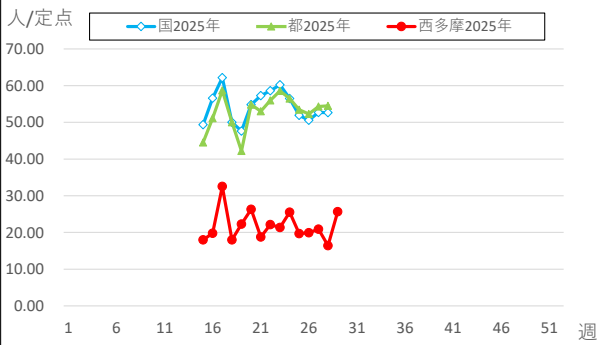
流行性角結膜炎



マイコプラズマ肺炎



急性呼吸器感染症（ARI）



今週のトピックス

～ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ～

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症とは

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症は、メロペネムなどのカルバペネム系薬剤及び広域β-ラクタム剤に対して耐性を示す腸内細菌目細菌による感染症の総称です。

原因と感染経路とは

主に感染防御機能の低下した患者や外科手術後の患者、抗菌薬を長期にわたって使用している患者などに感染します。

症状

肺炎などの呼吸器感染症、尿路感染症、手術部位や外傷部位の感染症、カテーテル関連血流感染症、敗血症、髄膜炎など、菌の種類、感染箇所により多様な感染症を起こします。

無症状で腸管等に保菌されることも多くあります。

予防のポイント

健康な人への感染はほとんど心配ありません。病院に入院している人を見舞うなどの際には、手洗いと消毒をしっかりと行うようにしましょう。

院内感染対策として、ドアノブ、手すりなど手が触れる場所の清掃・消毒により院内の環境を清潔に保つことや、人工呼吸器などの医療器具の消毒や手洗いを徹底することが重要です。

基礎疾患のある方は、基礎疾患の治療を適切に行うことも感染予防のために大切です。

感染症法との関係

感染症法では、五類感染症（全数把握対象）として定められており、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所へ届け出ることが義務づけられています。ただし、感染症を発症している患者のみが対象で、無症状の保菌者は届出対象ではありません。

※詳しい情報は下記のサイトを御覧ください。

東京都感染症情報センター「カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症」

<https://idsc.tniph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/cre/>

～ 疥癬（かいせん） ～ 施設等で1人でも発生したら保健所へ一報を！

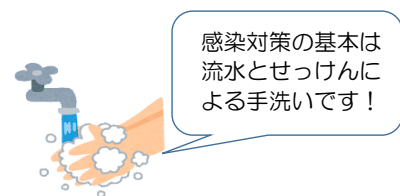
〔管内の発生状況〕

西多摩保健所管内では、疥癬による集団感染が毎年発生しており、2023年は4件、2024年は7件、2025年は第28週（7/7～7/13）までに5件となっており、高齢者施設等から報告が来ています。

〔疥癬について〕

- 疥癬は、ヒゼンダニが皮膚の最も外側の角質層に寄生して起こる感染症です。通常型と角化型の2種類があります。
- 潜伏期間は1～2か月と長いです。感染経路は、人と人との接触感染がほとんどです。
- 確定診断は、検鏡でヒゼンダニの虫体や虫卵、卵の抜け殻等を検出することですが、検出率は60%前後で皮膚科医でも診断が難しいです。
- 治療は、ヒゼンダニを殺すことを目的とした飲み薬や塗り薬があります。また、かゆみに対してはかゆみ止めの内服薬を用います。

	通常型	角化型
ヒゼンダニの数	数十匹以上	100万～200万匹
患者の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
主な症状	赤いブツブツ（丘疹、結節） 疥癬トンネル	厚い垢が増えたような状態 （角質増殖）
かゆみ	強い	不定
症状が出る部位	顔、頭を除いた全身	全身



〔感染拡大予防のために〕

- 集団感染源となりうる角化型は、自覚症状は軽度か無い場合もあります。さらに認知症等の高齢者では症状を訴えることも難しいと考えられます。
- 1ケア1手洗いが感染拡大防止対策の基本です。
- 日頃から、皮膚の観察**をしっかりと行い、疥癬の疑いがある場合は、**早期に皮膚科を受診**しましょう。
- 施設や医療機関等で感染を広げないためには、疥癬が発生した場合、**施設や医療機関等の間で情報を共有**し、感染力の強い**角化型の患者を早期に発見し、治療につなげる**ことが大変重要です。

※さらに詳しい情報は下記のサイトを御覧ください。

東京都多摩立川保健所「地域ケアにおける疥癬対応マニュアル（第4版）」

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shisetsu/jigyosyo/hokenjyo/tthc/information/2025/20250424>

国立感染症研究所「疥癬」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/380-itch-intro.html>

直近8週間の西多摩保健所管内定点医療機関報告数

	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週	1週目からの累計
新型コロナウイルス感染症	9	10	8	3	13	8	15	26	796
インフルエンザ	0	0	1	0	0	0	2	0	867
RSウイルス感染症	1	0	0	1	0	1	0	0	7
咽頭結膜熱	0	0	0	0	1	0	1	1	13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	15	13	4	14	5	12	9	194
感染性胃腸炎	22	18	16	19	30	11	15	24	917
水痘（みずぼうそう）	8	5	5	4	3	2	0	0	70
手足口病	0	1	1	0	0	1	0	1	18
伝染性紅斑	15	10	5	7	5	6	8	6	225
突発性発疹	2	2	1	5	1	1	2	1	35
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	2	1	2	6
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0	0	0	0	0	0	0	0	3
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	1	3

○グラフは、5類定点把握対象疾患についての推移を表しています。グラフ縦軸の目盛は定点あたりの患者報告数です。

○管内定点医療機関数は、小児科定点8、内科定点6、眼科定点1、基幹定点1となっています。

○毎週の患者報告数は、管内の定点医療機関から毎週月曜日に報告を受け、週報として木曜日に発行いたします。

○データの出典元は、下記のとおりです、国及び都のデータは1週間遅れで掲載しております。

〈出典〉東京都、西多摩保健所のデータ：東京都感染症情報センター <https://idsc.tniph.metro.tokyo.lg.jp/>
 国のデータ：国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>